

## 「高崎プライド」 ～心と形を整える～

令和3年1月29日（金） NO23 文責 木下 文秋

### 念ずれば 花開く

皆さんは「念ずれば、花開く」という言葉を聞いた事があるでしょうか。この言葉は熊本県の詩人 坂村真民（さかむらしんみん）という人の詩の一節に出てくるものです。「念ずれば花開く」とは、ただ念じていれば、願いをしていれば、夢や希望が叶うという意味ではありません。本当の意味は、一生懸命祈るように「努力する」ことで自ずと道が開ける、夢や目標が叶うという意味です。「念」という漢字を分解すると「今」と「心」という漢字が出てきます。これは「今」の思いや願いを自分の「心」に乗せ、目の前にあることを一生懸命やることの大切さを意味しています。すなわち「念ずれば、花開く」の言葉の裏には「今を大切に生きないと花（夢）は開かない」という教えが隠されているのです。また、スポーツの世界では「努力した者が成功するとは限らないが、成功した者はみな必ず努力している」という言葉もあります。確かに努力をしても敗れ去っていく者はたくさんいます。どんな競技でも、努力した結果が勝利に結びつくとは限りません。しかし、勝利した選手やチームは、みんな努力を積み重ねてきたことは言うまでもありません。話は変わり、今週は私立高校の入試がありました。引き続き、2月は県立の推薦入試、そして3月は県立の一般入試と続きます。3年生にとっては、最後のひとふんばりです。私と一緒にこの学校に入学してきた2年生は、4月からはついに最上級生となります。さらに、2月には6年生の入学説明会が予定されており、1年生も4月から先輩と呼ばれることとなります。コロナ禍の中でも確実に時は進んでいます。年明け早々、臨時休業となり、何となくぼんやりと新しい学期がスタートした感は否めませんが、令和2年度を締めくくるとても大事な残り2ヶ月です。それなのに、今の不安定な社会の動きは変わりそうにありません。自分自身でしっかり目標を定め、念じることで花を咲かせる準備を進めてください。最後に、かつて勤務した五ヶ瀬町立三ヶ所中学校時代、私は野球部の顧問をしていて、練習試合は宮崎市や延岡市では遠いので、近隣の熊本県阿蘇近辺の学校と交流していました。当時、蘇陽町にあった蘇陽中学校の校門にでっかく書いてあった校訓を紹介します。「再び帰らぬ時ならば、この一刻に命燃やさん」中学生になんと壮大な校訓なんだと思いました。